

## 議長賞

堺市立 新金岡小学校 六年

川 添 天 寧

### みんなの言葉で明るい社会に

私が目指すのは、みんなの言葉で、みんなが明るい気持ちになれるような社会です、みんなが、ちょっとしたことでも「ありがとう」や「ごめんなさい」、「がんばれ」や「大丈夫」などの他にも沢山ある素てきな言葉を使うだけで、一人一人が明るい気持ちになって、仲良く楽しく過ごせるようになると思いました。また、ケンカやイジメなどで、悲しい気持ちになっていた人も、このよな声かけをみんなからされると、元気になって、みんなが明るい社会になっていくと思えました。

私の家の玄関には、北原白秋の「一つの言葉」という詩がかざってあります。お母さんが、カレンダーの裏紙を使って、手書きしたものです。私は、この詩の中に出てくる、「一つの言葉はそれぞれに一つの心を持っている」という歌詞が大好きです。言葉は、一つ一つ大切に使わないと、ナイフのように人の心をさして、深く傷つけてしまいます。反対に相手が泣いてしまうぐらい、人を感動させることもできます。一度、人の口から出た言葉は、その人からはなれて、飛んでいくように思います。本当は思っていない

のに、遊び半分で言ってしまった言葉も、本当に相手を傷つけるようとして言った言葉も、同じものようになって飛んで行き、相手に届いてしまいます。また、一回声に出して言った言葉は、相手に届き、相手の心から消えませんが、どれだけ、「今のはまちがえだから、忘れて。」と言っても、一度口に出してしまった言葉は、相手の心に残ってしまいます。だから言葉は、ちゃんと考えてから使わなければいけないと、改めて思いました。母に、なぜこの詩を玄関にかざっているのかたずねたら、私が小学一、二年生のころ、私より三才年上の姉とよくケンカをして、お互いを傷つけるような言葉を使っていたからだそうです。母は、何回注意しても、私たちの言葉が変わらないので、この詩を何度も読んで、言葉の大切さに気付いてほしいという想いで、この詩を玄関にかざったそうです。母の願いは叶って、私と姉は少しずつ言葉に気をつけるようになり、ケンカも減って、逆に仲良くなってきました。少し恥ずかしい時もあるけれど、「ありがとう」や「ごめん」も言えるようになりました。おそらく、このような姉との経験から、

お互い、言葉が大切だと思えるようになったのだと、思います。

みんなが言葉のもつ力を理解し、人を喜ばせたり、人を楽しませたり、人を感動させられたら、みんなハッピーになって、明るい社会になれると思います。私も言葉をうまく使い、自分の想いを言葉に乗せて伝え、様々な人を笑顔にしたいと思っています。

まずは、家族や友達、先生などの身近な人たちを沢山笑顔にしたいです。そして、みんなからも世界中に広がって、戦争で苦しんでいる、ウクライナや暴力などを受けている子供達、毎日みんなのために働いている大人達にも、いつか、届いてほしいです。言葉を使えるからこそ、その言葉を大切に使うって、ケンカや暴力、戦争も無くなって、みんなが幸せで平和な、明るい社会になれば良いなど、強く思います。

